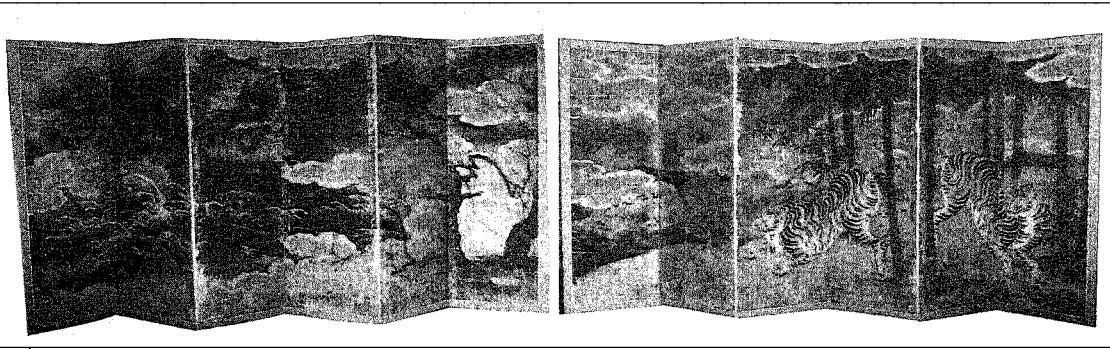


ふるさとの文化財散歩

先月に引き続き羽根子の曹洞宗大儀山長生寺を訪ねます。

竜虎梅竹之画

市指定有形文化財第三十六号



虎と竜からなる二雙一对の彩色屏風で、作者を示す落款は残されていませんが、甲斐国志によると狩野元信作と言われ、郡内領主であった鳥居土佐守成次によって、長生寺へ寄進されたとあります。

狩野元信（一四七六～一五五九）は、室町時代後期の絵師で狩野派の始祖、正信の長男として絵画における和漢混融をすすめる、狩野派の画風を大成し、その作品は京都の大徳寺塔頭靈雲院の襖絵・禁裏小御所障壁画・清涼寺縁起絵巻・鞍馬寺縁起など、名高いものが多く、一門絵師を率いて、雪舟・土佐光信とともに東山三傑といわれ、第一級的美術品を生み出しました。

さらに、この屏風には、天明八年（一七八八）と明治二年（一八七二）に表装替えが行われた記録があり、幾度かこのような補修が行われていて、寺宝としていかに大切にされてきたか、この屏風の歴史で知ることができます。

寸法 縦 一五〇センチメートル
横 三二五センチメートル
※落款 作者が自ら署名し、または印を押すこと。
※甲斐国志 江戸時代末期に編纂された地誌で、谷村の森島其進もその編纂にあたった。



釈迦十六善神之画

市指定有形文化財第三十七号

釈迦を中心に十六の神々が水彩により描かれた掛け図で、落款は残されていませんが、甲斐国志によると「琢磨真筆に疑いがない」と狩野安信が鑑定した」と記されており、長生寺の由緒書きで高山文佐衛門が永録七年（一五六四）に長生寺に寄進された、とあります。

琢磨派は、始祖を平安時代の琢磨為遠とする絵仏師の流派で、巧みな画法により、近衛天皇に仕え、法印に叙せられ、京都を中心に活躍し、神護寺や東寺などの仏画に関係したといわれています。

作者は琢磨派のどれかは不明ですが、趣のあるすぐれた美術品です。
この掛け図も天明五年（一七八五）に井倉の檀家、平井利兵衛が金一両を補修表具料として寄進し、その補修の際、絵紙の裏に「天和

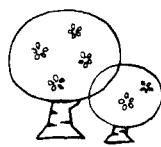
二年（一六八二）四月二日高山甚五兵衛朝繁云々と記されていた由とあります。このことは、郡内領主秋元喬朝（知）の家臣であった高山甚五兵衛朝繁が、百年以上前の祖先が寄進した掛け図を補修したことがわかります。

この掛け図は四百年以上も寺宝として大切にされ、釈迦と十六の神々は、その時代の人々のくらしをそっと見守ってきたことと思えます。

寸法 縦 一三〇センチメートル
横 六四センチメートル
※琢磨 宅間・託間・宅磨ともいわれる。
※法印 最高の僧位・僧侶
※狩野安信 徳川幕府の絵師ともなった狩野派の一員（一六一三～一六八五）で号を永真といった。

ふるさとの

四月



- 8日 花まつり 市内諸寺
- 10日 金毘羅社春の例祭 下天神町
- 11日 三嶋神社 田野倉 四社祭 田町
- 12日 御嶽神社 横町 与繩 赤石春日神社 中津森
- 15日 大神宮例祭 仲町 大神社 境
- 16日 太宰府天神社 境 稲村神社 小形山 豊川稲荷 宝鏡寺 機神社 大幡
- 18日 豊川稲荷 広鏡寺 大幡 市指定文化財 大船若経の転読がある 半僧坊 長生寺 子育延命地藏尊忌 夏狩 団子坂・耕雲院
- 20日 はたおり地藏 小野 雛鶴神社祭礼 曾雌
- 22日 お太子講 西願寺
- 23日 養蚕神社祭礼 菅野
- 24日 かがめや地藏尊祭礼 法泉寺
- 28日 愛宕神社祭礼 法能
- 29日 お不動さん 龍石寺 第37回市制祭 文化会館他